

特集：図書館員の自己啓発

## データベース検索技術者 (サーチャー)

古谷幸亮

### 1. はじめに

最近カタカナ職業といわれる新しい職種がいろいろ生まれており、そういう仕事を紹介したマスコミ記事には、データベース検索技術者(いわゆるサーチャー)認定試験もよく取り上げられています。特に女性に適した職種として紹介している場合が多いようです。実際、合格者をみると、現在では女性の率が上回ってきており、うなずけます。以下、この試験の内容・受験のための勉強法などについて、個人的経験の範囲で述べてみます。

### 2. 概要

この試験は、科学技術庁の認定をうけて、社団法人情報科学技術協会(以下、協会。〒112 東京都文京区小石川2-5-7 佐々木ビル、☎03-3813-3791 問い合わせ先: DB 試験認定係)が行っているもので、1985年に始まりました。

内容は、1級と2級に別れていますが、昨年からは情報検索基礎能力試験というのも新たに付け加えられました。2級は受験資格の制限がないのに対し、1級は2級合格が条件となっており、また、2次試験として面接があります。

ふるたに こうすけ: 奈良県立医科大学附属図書館  
情報サービス係長

試験の概要は通常8月頃発表され、12月の第1日曜日が試験日となっており、全国4カ所で行われます。

内容は、その名のとおり、オンライン・CD-ROMなどの情報検索に関するものですが、実務上関連してくる、コンピューターや通信機器、さらに学術情報の流通なども出題されています。全体として時間のわりにかかなりの質問数であり、また、英語の問題が必ず含まれています。

いずれにしろ、図書館や図書室で検索を担当している者にとっては、日常業務に直結しており、仕事の上で得た知識を再確認したり、広げたりする良い機会になると思います。

2級と1級の違いは、2級が検索実務の関連が中心であるのに対し、1級は検索部門の運営や指導といった面が加わります。

実務上での経験を生かして受験したい場合、2級で3年程度の経験、1級で10年程度の経験があると有利ではないかと、かつては思っていました。しかし、CD-ROMの普及でオンライン検索が減り、環境の変化も以前ほど激しくない現在、どの程度当てはまるのでしょうか。

### 3. 私の体験記

個人的な受験の経過を書いてみます。オンライン情報検索は、1979年から担当しています。つまり、日本で公衆回線による提供が始

まってからの変化をそのまま経験しながら仕事をしてきたこととなります。現在40代の図書館員には同じ立場の人が多くでしょうが、そういう体験のせいで、この試験を受けた際には、ずいぶんと得をしたと言えます。初期のさまざまな説明会に出席でき、機械上でのデータ処理などの解説まで聞けたこと、端末専用機からパソコンへの変化に伴うあれこれ（業者との交渉、設置など）を見聞きできたこと、そして何より、失敗も含めてオンライン検索を数多く経験できたことが大いに役立ちました。

1985年にこの試験が始まった段階では、それほど興味がありませんでした。そのうち、自分の知識や経験のレベルを知りたくなり、1990年に2級を受け合格しました。会場では何人か知った顔を見かけましたが、企業から団体で来ている姿や、大きなカバンをさげて泊まりがけで来ているらしい姿が、目につきました。1級の方は、かなりむずかしいと聞いていたので3回までは挑戦してみつもりでしたが、幸い1992年に2度目で合格しました。

#### 4. 受験勉強

以下、ごく主観的になりますが、受験勉強で役立ったこと、感じたことなどを書いてみます。

##### (1) 過去問題

試験のレベルや自分にとって受ける価値があるか否かなどを、手っとり早く知るには、過去の試験問題（いわゆるカコモン）を見つめるのが一番でしょう。雑誌の「情報の科学と技術」には、試験後しばらくして毎年掲載されますし、協会に請求すれば実費程度で入手できます。また、後に紹介する本には、解答付きで問題がのっています。

##### (2) 参考図書

私自身も利用したものとしては以下があり

ます。

a)津田良成編：図書館・情報学概論  
第2版、勁草書房、東京、1990、  
¥2,884

b)三輪真木子：サーチャーの時代  
－高度データベース検索－  
第2版、丸善、東京、1993、  
¥2,575

注) 1992年分の試験問題と解答つき

c)情報科学技術協会編：新サーチャー入門、日外アソシエーツ、東京  
基礎編 第2版、1992、¥3,800  
応用編、1990、¥3,800

この3冊は、「サーチャー試験の3種の神器」とも言われているようですが、確かに、理論・歴史・実務が大体カバーできます。ただし、単行本という性格上、新しい情報は不足しますので、以下の雑誌も活用をした方がよいでしょう。

a)情報の科学と技術(情報科学技術協会)  
b)情報管理(JICST)

a)は試験主催者による雑誌だけに、関連情報が満載という状態で、試験の案内・問題・結果・図書の紹介・講座の案内などが載ります。受験を考えている場合は、講読をお勧めします(年会費：¥9,000、入会金：¥1,000)。同誌にのった最近のサーチャー関連記事としては以下があります。

1)パネル・ディスカッション：  
サーチャー試験を考える  
V.43(10):886-892, 1993

2)「1991年度データベース検索技術者認定試験」に合格して  
V.42(9):859-863, 1992

b)の情報管理には、連載講座として新しい事柄や基礎的なものが掲載されるので知識の整理に役立ちます。

他に、以下の本も役に立ちそうです。

a)木内良一監修：サーチャー試験－傾向と対策－、日外アソシエーツ、東京、1993、¥4,800

注) 東海サーチャーの会によるも

ので、1992年までの数年分の  
解答と解説など

b)サーチャー用語研究会編：サーチャー  
用語集、日外アソシエーツ、東京、  
1993、¥2,280

c)オンライン・データベース・ディレク  
トリー 1994年版、東洋経済新報社、  
1994、¥14,000

注)特集として、1993年分の解答  
とサーチャー実態アンケート

### (3) マニュアルなど

試験問題に出てくるデータベース・システムは、ほとんどが JOIS と DIALOG です。この2つのシステムについては、使い方や代表的なデータベースとその内容などを頭に入れて置く必要があります。特に新しく付け加わった便利な機能や価値のありそうなデータベースは、出題の可能性大です。マニュアルやデータベース・カタログ、ニュースなどを注意して読むこととなりますが、その際、DIALOG は英語で読む癖をつけておいた方が有利です。毎回、英語の、それもかなり長い問題が出題されています。

### (4) 面接

1級は2次試験として東京で面接があります。事前に参考資料として、仕事の内容などを書いたレジュメを提出します。面接は、1人ずつ行われ、3人の試験官から25分にわたって質問を受けます。私の印象では、評価のポイントは、どれだけ自覚的に仕事をしているか、問題意識を持っているか、周辺の関連事項に目配りしているかといった点のようです。細かな技術的なことまで言えば、予想質問に対する解答を実際に口頭で表現しておくのと安心ですし、また、1次の筆記でできなかった問題は調べなおして置かないと、受験者としての態度を問われます。

面接一般に言えることでしょうか、図書館員にとっては苦手な、自分を積極的に売り込む態度、具体的には、「こんなこともしてい

ます、できます」という姿勢で臨むことが必要なようです。また、質問内容を早とちりして答えないようにし、必要なら聞き返すつもりでないと、マイナスの印象を与えたり、後でつじつまが合わなくなったりする恐れがあります。

### (5) その他の手段

パソコン通信のニフティ・サーブには、フォーラムの一つとしてサーチャー倶楽部があり、試験についてもさまざまな情報交換が行われ、問題の解答例や面接での質問項目も載っているとのこと。さらに、ここから発展して各地で勉強のためのグループもできているようです。

また、サーチャーのための講習会も、協会自身によって開かれており、中には試験対策と銘打っているものもあります。ただ、東京での開催が多く、かなり高価にもなります。一部の専修学校では、試験のためのコースも設けています。その他、JOIS や DIALOG の説明会、データベース・フェアなどの講演も有用です。

## 5. 病院図書室担当者として

病院図書室は、ほとんどの場合、一人で運営されているわけですが、こういう実務的な試験では、有利な立場にすることになります。受験者の大部分を占める企業の情報部門や特許部門の場合、ごく限られた範囲しか担当していないとか、日本語データベースしか使わないため、勉強に苦労する人もあるようです。医学分野は、英語に触れることも多いです。情報処理分野の進歩・変化がすぐ反映されて、新しいものを知る機会も多いでしょう。

一方では、最近増えつつある CD-ROM のせいで、インタビューや検索式の組み立てといった、オンライン検索の実践が経験しにくくなってきています。利用者を指導する際、検索結果を利用者と共に個々に確かめていく姿勢が必要でしょう。

## 6. おわりに

仕事を持ちながら受験勉強をするのは、大変シンドイことですが、自分の体験を見直す機会が、こういう形で与えられているのは、

ありがたいことだと思います。日常業務と一見関係ない理論や他の分野の勉強なども、視野を広めてくれるのではないのでしょうか。関心のある方には、ぜひ受験されることをお勧めします。

